

# 東区歴史街道を往く



Vol. 6

東区歴史ガイドボランティアさんぽ会のおすすめスポット  
ふくおか市政だより東区版に掲載

市政だより 東区



掲載月	タイトル	ページ	掲載月	タイトル	ページ
H31年4月	神功皇后ゆかりの名島神社	… 3	R2年8月	海の中道に幻の「森の池」現る	… 14
R1年5月	志賀海神社の「照龍」扁額	… 4	R2年9月	和白の地に眠る古墳群	… 15
R1年6月	三苫の「森屋敷」	… 5	R2年10月	神功皇后由来の「箱崎三山」	… 16
R1年7月	唐津街道 箱崎宿界隈の町家	… 6	R2年11月	香椎の上組、下組薬師堂	… 17
R1年8月	仲哀天皇の棺がつくられた「大槨」	… 7	R2年12月	細川幽斎の歌碑	… 18
R1年9月	お観音様広場と龕塔碑	… 8	R3年2月	志賀島香音寺別院「御瀧 不動堂」	… 19
R1年10月	西戸崎神社	… 9	R3年3月	奈多の宝塚	… 20
R1年11月	三苫浜の平岩（赤岩）	… 10	R3年4月	筥崎宮の御神木「筥松」	… 21
R1年12月	九州大学「医学歴史館」	… 11	R3年5月	台湾総督などを輩出した明石家	… 22
R2年2月	栄西と報恩寺	… 12	R3年6月	名島の丘に眠る古墳	… 23
R2年3月	臥龍桜で有名な名島城址公園	… 13			

※本文の内容は市政だより掲載時点のものです。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 神功皇后ゆかりの名島神社

平山 勲

名島神社は、博多湾を見渡せる高台にあります。神社の石碑には、4世紀ごろ神功皇后が朝鮮半島に遠征（三韓遠征）した際に、名島海岸から宗像の三女神に遠征の無事を祈り、無事帰還できた御礼に三女神の祠を建てたという神社の起源が書かれています。

神社は当初、山頂（現在の名島城址公園）にありましたが、天正16（1588）年2月、豊臣秀吉の命により小早川隆景が名島城を築いた時に、社殿が海岸に移されました。

名島城は慶長5（1

600）年の関ヶ原の戦い後に藩主となった黒田長政の福岡城築城のため解体され、元禄9（1696）年に第4代藩主綱政が、名島神社を再び山（現在の場所）に戻し、浜には鳥居を建てました。現在の本殿は、文政13（1830）年第10代藩主斉清の時に再建され、平成23年に改修されました。

狛犬は福岡城築城の時



住民から寄進されたという珍しい魚の石像



に、資材に使われたといわれ、現在は珍しい魚の石像が置かれています。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 志賀海神社の『照龍』扁額

加藤 徳生

海神の総本山である志賀海神社は、神代より「龍の都」と呼ばれています。

が起りました。志賀島 一帯も大干ばつに襲われ、これを憂いた天皇が

この神社には、第61代朱雀天皇のご宸筆

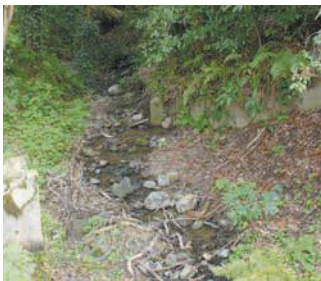
『照龍』額を奉納し、雨乞いの祈願祭を行います。

『照龍』の扁額Ⅱ左写真Ⅱがあります。朱雀

川)から白龍が天に昇り、雨が降ってきたそうです。

天皇の治世中(930〜946)は、富士山の噴火、地震、洪水など数多くの災害や、各地で豪族・貴族の反乱

この扁額は掛け軸に仕立てられ、非公開ですが志賀海神社の社宝として今も大切に保存されています。



今も流れる天龍川



雨乞いが行われた旧暦の7月7日を記念し、神社では毎年8月6・7日に七夕祭が行われています。七夕祭には、航海の安全と無病息災を祈願しに多くの人が訪れ、参拝者には神功皇后が三韓出兵から無事帰国できたことにちなんだ「事無柴」が授与されます。



# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 三苫の「森の屋敷」

柳瀬 英昭

三苫の綿津見神社（三苫六丁目）には、敷地の外に「森の屋敷」（三苫七丁目）と呼ばれる稲荷社があります。ここは「三苫家」代々の屋敷跡ではないかと言われています。

三苫家の起源は、西暦800年ごろ武内宿禰すくねと共に香椎宮の神主として京から下ってきた和氣重春です。重春は香椎宮の神領「三苫郷」を与えられ、三苫重春と姓を改めました。その後、三苫家は代々領主として三苫郷

を領有しました。

香椎宮を統括する大宮司は、主に武内家が担っていました。明治初頭まで「香椎四党」と呼ばれる4家が務めることがありました。三苫家はその一つで、永祿七（一五六四）年に三苫家三代基宜が大宮司に就任しました。

森の屋敷に鎮座している稲荷社は、大正のころまで近くに住む漁師たちが取れたての新鮮な魚を供えて、豊漁の祈りとお礼に参詣したとのこと。また、物をなくした

時に、この稲荷社にお祈りするとなくなった物が出てくるといわれ、今でもご利益を求めて参拝者が訪れます。



奥に見えるのが稲荷社



# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 唐津街道 箱崎宿界隈の町家

箱崎 文衛

箱崎・馬出地区の旧唐津街道(県道21号線)沿いは、明治・大正時代から残る魅力的な町家が点在し、町家文化遺産の宝庫といわれています。

町家には、癒しや安らぎを感じさせる三つの魅力があります。一つ目は、人と自然が家の中で共存していることです。中庭や吹き抜け、天井の明り取りが、室内に自然を取り込む役目を果たしています。

二つ目は、人と神仏が家の中で「同居」していることです。町家の「中の間」には氏神様で



箱嶋家住宅(一般公開)の中間

ある管崎宮の神棚が祭られ、通り土間には火の守り神・台所の守り神である荒神様(かまど)が鎮座し家を守っています。三つ目は人と漆のつながりです。町家の内装にはベンガラ漆という赤い塗料が用いられています。古来から、漆には邪悪なものを寄せ付けない特別な力があると人々に

信じられてきました。このように町家には先人たちの工夫が随所に施されています。最近では、一般公開されていない町家を特別公開するなど、町おこしの活動も盛んです。



★一般公開 ■店舗営業 ●非公開の町家

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 仲哀天皇の棺ひつぎがつくられた「大槨」おおまき

田原 昭子

香椎の地名は、香椎宮の古宮跡（香椎三丁目）の敷地内に現在もある「棺懸かんかけの椎」に仲哀天皇の棺を立て掛けるところ、四方に「香ばしい香り」がしたことに由来しているといわれています。

その棺が作られたといわれる「大槨」（左写真）が、香椎台おいの山公園（香椎台五丁目）にあります。

この公園には、自然樹林を挟んで、上段に



緑豊かな香椎台おいの山公園

多目的広場が、下段に遊具広場があり、近隣住民の憩いの場となつています。上段の広場の一角には、かつて香椎の地に築かれた「御飯おいの山城」の模型や説明板があり、地域の昔の姿や歴史を伝えています。

大槨は下段の広場の奥にあります。樹齢四千年といわれるこの木は、幹が数本に分かれ、近くで見ると迫力があります。



大槨の根元にある石碑

また、根元には木に宿る神を祭る石碑もあり、地域の人たちによって手厚く守られてきました。この公園で、大槨を眺めながら、四千年前の昔に思いをはせてみませんか。



# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## お観音様広場と龕塔碑 がんとうひ

眞田 幸人

小早川隆景が名島城に居城した天正15（1587）年頃、神宮寺という大きな寺が名島城の内濠にありました。神宮寺は小早川隆景や黒田の藩主から寄付を受けていましたが、明治維新となり神仏分離令が出されると、衰退し廃寺となりました。

民によって、昭和4（1929）年に建てられました。

神宮寺には、神宮寺が廃寺となるまでの沿革が記

※龕塔とは、断崖や大岩を彫って作られた仏像を納める厨子ずしのことで、後に供養塔や墓碑などに用いられた。

された。終戦後削り取られました。現在は、碑文とその現代訳が記された看板があります。お観音様広場には龕塔碑のほか、神宮寺歴代の高僧を葬る墳墓などがあり、名島の歴史をしのぶ場所となっています。



お観音様広場

神宮寺が建立されていた場所は、現在、お観音様広場と呼ばれ、その一角に龕塔碑（※）があります。龕塔碑はお観音様広場が荒廃することを案じた地域住



龕塔碑



# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 西戸崎神社

石井 志津子

西戸崎神社（西戸崎四丁目）には、須佐之男命・大国主命・神功皇后の御霊が祭られています。

起源ははっきりしていませんが、大正8（1919）年ごろ、シベリア戦争に出征した兵士の無事を地元でも祈願できるよう祭られたと考えられています。当時、御霊は「お祇園様」と呼ばれ西戸



西戸崎神社

崎本町（西戸崎二丁目）の祠にありました。

第二次世界大戦後、心が荒廃する中、地域の人々が安らぎを求めて神社を創設しようという機運が高まりました。地域を挙げての寄付により、昭和28（1953）年11月に現在地に完成し、御霊が移されました。

昭和61（1986）年2月には、博多区の櫛田



祇園祭りの昇き山

神社から夫婦恵比寿（事代主神・玉櫛売神）を分霊し、同神社の末社となり現在に至ります。

西戸崎神社には、正月、節分、祇園、七五三、夫婦恵比寿の五大祭りがあります。特に7月の祇園祭は、山笠「昇き山」が繰り出し、かつて炭鉱や米軍基地などがあった頃のにぎわいをほうふつさせる盛り上がりを見せます。



# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 三苦浜の平岩（赤岩）

山田 次男

三苦浜の中央に位置する波打ち際に、「赤岩」と呼ばれる小さな粘土質の岩があります。

昔、この岩は上部が平らな大きな岩でした。そのため、地元では「平岩」とも呼ばれ、三苦浜のシンボリックな存在として地域の人々に親しまれていました。岩の上に一人で登



昭和45（1970）年ごろの平岩。  
岩の上には人の姿も

ることは小さな子どもたちの夢でもありました。

この岩のことをよく知る人によると「平岩は半島のように大きく、昭和10年代ごろは、岩の上に低い松の木が吹きさらしで20本位あり、茅かやのような植物も生え、松露しとろ（海岸の松林の砂地に生えるキノコ）の採取ができた」とのことです。

近年は波や風の浸食によって年々消滅しつつあ



現在の平岩。浸食により全長約3メートル70センチ、高さは約50センチに

り、砂に埋もれて見えな  
いときもあります。自然  
の現象とはいえ、地元で  
長く親しまれた平岩が消  
えてしまうのは一抹の寂  
しさを感じます。

三苦浜は、歩けばキュツ  
キュツと音がする鳴き砂  
で、過去にはアカウミガ  
メが産卵したこともあり  
ました。三苦浜と平岩は  
いつまでも残しておきた  
い地域の「ふる里遺産」  
といえるでしょう。





# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 九州大学「医学歴史館」

奥永 茂晴

九州大学病院キャンパス（馬出三丁目）の正門から入った左手に、医学歴史館があります。

同館は、1903（明治36）年の大学創立時に建てられた解剖学講堂を復元したものです。解剖学講堂は、医学部のシンボリック存在でしたが、1997（平成9）年に新病院建設のため解体されました。

その後、医学部同窓会の寄付により、解剖学講堂の外観をほぼ忠

実に再現した医学歴史館が、2015（平成27）年に完成しました。

医学歴史館1階の常設展示室には、九州大学病院の百年余りの歩みを時代順に六つに分け、資料が展示されています。また、陶器で作られた人体模型や昔の顕微鏡などの



木造洋風建築の医学歴史館



人体模型などの展示

貴重な資料も展示されています。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 栄西と報恩寺

門 靖夫

栄西は、禅宗の一つである臨済宗を起こし、建久6（1195）

年、聖福寺（博多区御供所町）を開山したことで知られています。

また、宋より持ち帰ったお茶の種を背振山麓に植え、各地に広め、お茶を飲む習慣を全国に伝えたといわれています。

その栄西は、日宋貿易

易などを通じて平氏と強いつながりがあり、建久3（1192）年、その

平氏とゆかりがあった香椎宮の境内地に日本最初の禅寺である「報恩寺（香椎三丁目）」を建立しました。また、同時期に中

国天山から持ち帰った菩提樹をこの地に植樹しました。この菩提樹は後に奈良の東大寺に株分けされ、さらに日本各地に

分植されたといわれます。

しかしながら、天正14（1586）年の島津軍と大友軍の立花山での戦いにより、報恩寺は焼失してしまいました。

その後、報恩寺は昭和時代に再建されました。菩提樹も東大寺から移植され、苔むす静かなたたずまいの中に今も芳しい香りを漂わせています。



本堂(奥)と菩提樹(手前)



寺の入り口にある観音堂





# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 臥龍桜がりゅうざくらで有名な名島城址公園じょうし

安部 光征

名島一丁目にある海岸沿いの小高い丘陵地の中腹に、公園があります。ここにはかつて、小早川隆景が築城した名島城がありました。福岡城の築城により名島城の一部が移築され、慶長12（1607）年に名島城は廃城となりました。

もろうよう働きかけました。その結果、平成12年度中に用地買収が済み、公有地として残すことができました。その後発掘調査等を経て、平成24（2012）年4月に「名島城址公園」として開園しました。



この地は私有地で

あったため売りに出されましたが、歴史的価値を考慮し、地域の人が市に買い上げて



名島城跡の石碑



公園内の臥龍桜

や志賀島が望め、立花山なども見ることができ、眺めがよい場所と

して区民に知られています。

公園内には、樹齢400年といわれ、「臥龍桜」の愛称で親しまれている桜の大きな木があります。枝が地面を這うように伸びていて龍のように見えることから、その名が付けられました。満開の桜は滝のようで、訪れる人々の目を楽させています。

## 海の中道に幻の「森の池」現る 城戸 重臣

海の中道海浜公園（大字西戸崎）は、昭和47（1972）年に米軍から返還された博多基地の跡地に整備された国営の公園です。

今年4月から、公園

の一部で、これまで未公開だった「森の池エリア（約50畝）」が公開されています。

このエリアは両側が海に挟まれた細い砂州



大雨の後、短期間だけ出現した池  
（令和元年9月撮影）

になっており、砂浜には松林が広がっています。

数年に一度、大雨が降ると、地下水位が上昇し、クロマツ林の中にごくまれに「池」が出現する箇所があります。

『筑前国風土記逸文』には「この地に亀ヶ池、亀栖池あり。これ志賀大神亀を放ちたまひし所」と記載があり、この「幻の池」に神功皇后ゆかりの亀を



遊歩道を渡って水辺を散策できます

放ったと伝えられています。

現在でも、この亀伝説に基づき、志賀海神社の神職が毎年10月にこの場所を、「亀祭（非公開）」を執り行っています。

緑のトンネルを抜けて、半世紀近く人の目に触れることのなかったこの森の池エリアを散策してみませんか。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 和臼の地に眠る古墳群

柳瀬 英昭

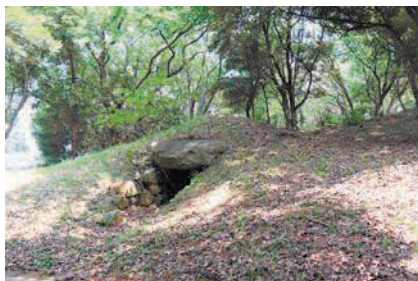
和臼地域の丘陵部には、かつて古墳群が点在していました。

昭和45（1970）年、市営住宅高美台団地と美和台団地の造成に当たり発掘調査が行われ、上和白地区で4群9基の古墳群から成る「宮前古墳群」（高

美台二丁目）が発見されました。

下和白地区では、昭和54（1979）年の和臼丘中学校建設の際の発掘調査によって、3基の古墳から成る「下和白塚原古墳群」（和白丘二丁目）が発見されました。

両古墳群は横穴式石室で、馬具・矢じり・須恵器・ガラス玉・土師器などの副葬品が出土しました。このことから、この地域には、継体21（527）年の磐井の乱後に設置された糟屋屯倉（朝廷の直轄領）に関係する武人がいたとみられています。下和白塚原古墳群と宮前古墳群の2号墳は発掘



高美台南公園にある宮前古墳群の3号墳

調査後埋め戻され、現在は見る事ができません。現存しているのは宮前古墳群のみで、1号墳を大神神社で、3号墳を高美台南公園で見ることが出来ます。

神功皇后ゆかりの大神神社から高美台南公園を散策し、和臼の地に眠る古代の一面に思いをはせてみませんか。



# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 神功皇后由来の「箱崎三山」

奥永 茂晴

神功皇后が朝鮮半島に遠征（三韓遠征）した4世紀ごろ、箱崎の地に遠征のための基地が作られました。当時、多々良川の入り江は筥崎宮の裏手（現JR箱崎駅付近）までありました。基地周辺の神社の通称に「山」が付いていたことから「箱崎三山」と伝えられています。



米山弁財天（宇佐殿）

目）です。遠征のための米俵を集積した故事により、米山が名称に付いています。米山弁財天は、筥崎宮の境外末社であり、宗像三女神を祭った神社「宇佐殿」の別名です。二つ目の神社は、「武内神社」です。遠征のための軍船が転覆しないようにバランスを保つための真砂を集積した真砂山の上にありました。現在は、箱崎一丁目に記念碑のみが立っています。



記念碑

三つ目の神社は、「道具山神社」（馬出五丁目）です。武器などもろもろ



道具山神社

の道具を収容し、神功皇后が盾を埋めたと伝えられています。  
歴史をしのびながら箱崎界隈を散策してみませんか。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 香椎の上組、下組薬師堂

森永徹

香椎宮の周辺には、上組、下組の二つの薬師堂があります。薬師堂とは、人々の病苦を救うとされる仏様「薬師如来」を安置したお堂のことです。二つのお堂とも、神の信仰と仏教信仰を融合調和した神仏習合（神仏混淆）の時代に香椎宮を守護する寺であったと考えられています。



上組薬師堂（香椎三丁目）は、香椎宮北側の不老水の近くにあり、薬師如来や大日如来像のほか、11体の観音菩薩像などが安置されています。また、敷地内には、閻魔堂や1880（明治13）年が始まりとされる「糟屋北部新四国八十八箇所霊場」の第七十二番札所としての石碑も立っています。



上組薬師堂の薬師如来像（中央）



下組薬師堂

下組薬師堂（香椎一丁目）は、香椎参道のJ R香椎線踏切近くにあり、入り口には、地藏菩薩像が立ち、薬師如来像のほか、31体の観音菩薩像が安置されています。どちらの薬師堂も地元の人によって手厚く守られています。コロナ禍の今、病苦救済の薬師堂を訪ねてみてはいかがでしょうか。



## 細川幽齋の歌碑

池間 夏子

多々良川河畔に「いにしへはここに鑄物師の跡とめて今もふみみるたたら瀉かな」と刻まれた細川幽齋の歌碑があります。

細川幽齋は、安土桃山時代の武将・歌人で、本名は細川藤孝といえます。明智光秀の盟友でしたが、光秀が



細川幽齋の歌碑

本能寺の変を起こした天正10(1582)年に出家して幽齋と名乗り、彼とは距離を置きました。

天正15(1587)年、幽齋は九州に遠征した豊臣秀吉の陣中見舞いに訪れました。その時の様子を記した紀行文『九州道の記』によると、この歌は、幽齋が香椎の浦から帰る途中、多々良浜を歩いた際に詠まれたものようです。「昔ここに住んでいたという鑄物師の跡を訪ねて、今もたたらを踏むように歩いてみる多々良浜だなあ」という

意味で、「鑄」に「居」を掛け、「ふみ」は「踏鞴(たたら) (金属の精錬に必要な空気を送る大型の送風機)を踏む」と「浜を踏み(歩く)」の掛詞になっっています。かつて多々良川河口付近は広大な干潟で、大陸から渡来した鑄物工が住み着き、川砂から採れた砂鉄で鑄物を造っていました。

幽齋が歌を詠んでから約400年たった現在、この地は「ふれ愛ロード」として整備され、多くの人が「今もふみみる」場所となっています。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 志賀島香音寺別院「御瀧不動堂」

古賀 偉郎

806（大同元年）年、

唐で2年間の仏道修行を終えた弘法大師空海は、遣唐使の帰船に便乗し、帰国の途に就きました。

船が大海に出て程なくして、徐々に空が暗くなり風は吹き荒れ、波が頭上を越えるほど海が荒れ始めました。船は木の葉のように揺れ、前に進むことも困難な状況でした。

そこで、弘法大師は、船中で不動明王を一心に念じました。すると、徐々に暴風が収まって海も穏やかになり、船は無事に志賀島にたどり着くことができました。

た。

弘法大師は、弘の不動ヶ浦に上陸すると、残田川の上流にある瀧淵で、航海でのご加護に感謝し、灯りを付け祈願する、奉燭を執り行いました。以後、この地は、弘法大師空海「奉燭の地」として長く語り継がれています。

弘にある香音寺の古文書記録によると、別院御



香音寺別院の「御瀧 不動堂」



瀧不動堂に関して、「明治37年御堂を建立、通夜堂を増築して、一般参拝場となす」とあり、その後大正時代にも修復した記録があります。

残田川の砂防ダム建設のため、平成16年に移転を余儀なくされ、平成21年、旧地に隣接する現在地に、「御瀧 不動堂」が新築されました。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 奈多の宝塚ほうづか

酒井 孝司

江戸時代の後期、和白村大字奈多の内海岸に、福岡藩に納める御用米の集積所がありました。当時「裏糟屋」といわれた、現在の新宮町や古賀市、宗像市南部の農民たちは、米俵を馬の背に3俵、牛の背に2俵を積み、ここまで運び込んだといわれています。

元禄時代に築かれ



奈多周辺地図 ※枠内周辺が宝塚  
出典：『福岡県糟屋郡勢要覧（大正13年調）・糟屋郡地図』（部分）福岡県立図書館蔵

た、和白から雁の巣に至る「堤防」の西端に連なるこの海岸には、大きなわらぶきの倉庫がいくつもあり、駐在の侍が米俵の検査や倉庫の管理をしていました。ここから舟1隻に38俵を積み、荒津（現在の中央区）にあった福岡藩の米蔵に運んだそうです。

このような経緯から、「宝塚」という小字の地



大正時代の宝塚海水浴場 出典：和白郷土史『ふる里のむかしわじろ』

名が付けられました。まさに、米俵という宝が塚のように山積みされていたことでしょう。明治時代には、博多湾鉄道（現JR香椎線）の沿線の松林一帯が高級別荘地として売り出され、大正時代には、海水浴客で大いににぎわったそうです。現在、その地名はなくなり、雁の巣となっています。



現在の宝塚付近（雁の巣2丁目海岸）



## 宮崎宮の御神木「筥松」

柴田 芳子

宮崎宮の楼門の右側にある松の木は、神功皇后が応神天皇を出産した際、胞衣えい（胎盤な・へその緒）を筥（箱）に入れ、この地に納めた標しるしとして植えられたものだといわれています。

いわれています。「箱」の文字を用いたのは、「筥」の文字は天皇に由来し、畏れ多いため、使用するのを避けたからと考えられています。

ワースポットとして野球やサッカーなど多くのスポーツチームが毎年正月に必勝祈願に訪れ、「筥松」の玉垣にはいくつもの大きな絵馬が飾られています。

この松は「筥松」と名付けられ、神社の御神木となっています。また、この箱は、宮崎宮の神具として今に至るまで奉納されている「博多曲物」の起源ともいわれています。

日本三大八幡宮に数えられる宮崎宮は、鎌倉中期の蒙古襲来の折、神風が吹き、未曾有の困難に打ち勝ったことから勝運の神として有名です。そのため、勝利に関わるパ

宮崎宮では、毎年12月14日に応神天皇の生誕を祝う「御降誕祭」が、胞衣を納めた縁日である12月31日には「御胞衣祭ごほういさい」が行われています。

地名や駅名などに見

られる「箱崎」の名称も、胞衣の箱を納めたことにちなんでいると



宮崎宮の御神木「筥松」



玉垣に飾られている絵馬

台湾総督などを輩出した明石家<sup>あかし</sup>

濱地 美喜

香椎参道のJ・R鹿兒  
島本線の踏切そばにあ  
る大鳥居の北側には、

昭和初期頃まで立派な  
洋館が建っていました。

この洋館は、黒田藩の  
重臣を輩出した明石家  
によって建てられたも  
ので、現在は、マンシヨ  
ンが立っています。

明石家には、第七代  
台湾総督の明石元二郎<sup>もとじろう</sup>

(1864～1919



1,800坪の広大な敷地に建てられた  
「明石邸」

年)Ⅱ左写真Ⅱがいます。

彼の活躍はほとんど知ら  
れていません。それは彼  
がスパイ活動をしていた  
からです。日露戦争前か  
らロシアの戦力分析や作  
戦情報の入手、反乱分子  
の支援などを行っていた  
と、彼の遺稿『落花流水』  
や後の研究によって明ら  
かになっていきます。

元二郎は参謀本部から  
莫大な資金を与えられ、  
その資金でロシア国内の  
革命組織や少数民族の独  
立運動家とつながりを持



ちました。彼らに活動資

金を援助することによっ  
て、ロシアで反乱や事件  
が次々と起こりました。  
国内から揺さぶりをかけ  
たのです。それによりロ  
シアは、日露戦争に集中  
できなくなりました。

ドイツ皇帝ヴィルヘル  
ム2世は、元二郎を「一  
人で満州の日本軍20万人  
に匹敵する戦果を挙げ  
た」と称えています。

後に第七代台湾総督に  
なった元二郎は、水力発  
電所の建設や、鉄道網の  
拡充、学校制度の整備な  
ど台湾の発展に尽力しま  
した。彼の死後、遺体は  
遺言通り台湾の地に埋葬  
されています。

# 歴史

歩・歩・歩  
さんぽ

## 名島の丘に眠る古墳

西郷 玲子

名島小学校から南に約80メートルにあり、現在は住宅が立ち並ぶ丘陵地（名島四丁目）には、かつて「名島古墳」がありました。

今から約40年前の1978年、宅地造成中に墳丘全長約30メートルの古墳が発見され、調査の結果、古墳時代前期の纏向型前方後円墳であ



名島古墳出土の三角縁神獣鏡（福岡市所蔵）

ることが分かりました。古墳時代、この辺りを含む粕屋平野一帯は北部九州の政治・文化・生産の重要な地域の一つで、大陸や半島とのつながり

がありました。古墳からは、埋葬のための木棺や、副葬品として土器や鏡、鉄剣の破片なども発見され、鏡は、修復の結果、縁の断面が三角形で鏡の背に神や仙人をモチーフとするデザインから「三角縁神獣鏡」であると判

明しました。同類の鏡が奈良県山辺郡都祁村（現在は奈良市）と愛媛県今治市桜井でも確認されています。

この鏡は卑弥呼が魏の国から贈られた鏡で、卑弥呼の没後に、各地の有力者に配布されたのではないかといわれています。このことから、名島古墳に埋葬されたのは、対外交渉に関与した有力者だったのではないかと推定されています。

現在、鏡は市博物館（早良区百道浜三丁目）の常設展示室に展示されています。現物を見て、古代に思いをはせてみませんか。

## 東区歴史ガイドボランティア連絡会 歩・歩・歩（さんぽ）会

東区歴史ガイドボランティア連絡会（愛称：さんぽ会）は、東区の歴史と文化を学びながら、地域の魅力を広く伝えていくことを目的として活動しています。

さんぽ会の詳細はホームページをご覧ください。  
「東区歴史街道を行く」「東区歴史ガイドマップ」のPDFをダウンロードしていただけます。



さんぽ会ホームページ

東区さんぽ会



発行 福岡市東区企画振興課  
福岡市東区箱崎2丁目54-1  
2024(令和6)年3月